

杉玉青々、新酒完成告げる

飛騨市 渡辺酒造店で掛け替え



新酒の完成を知らせる杉玉の掛け替えが1日、清酒「蓬萊」の蔵元、飛騨市古川町壱之町の渡辺酒造店で

行われた。青々とした杉玉が軒下に蔵人らの手で掛けられ、見物客らに新酒が振る舞われた。

青々とした杉玉は新酒の初搾りを終えたことを知らせ、茶色くなることで酒の熟成を伝えるとされる。今季の杉玉は直径80センチ、重さ80キログラム。下呂市の職人が手掛けた。今季は9月中旬から酒造りを始めていた。

この日は、酒蔵での神事

杉玉を掛け替える蔵人ら。飛騨市古川町壱之町、渡辺酒造店

の後、昨季の杉玉が下ろされ、渡辺久憲社長らが見守る中、蔵人らが真新しい杉玉を慎重に掛け替えた。作業を終えると、飛騨市古川町壱之町の渡辺酒造店

で、見物客たちがグラスに注がれた新酒を味わっている。酒米のヒタホマレの仕入れ値が高騰しているという、渡辺社長は「酒造りを

する身としては大変だが、多くの人においしく味わってほしい」と話した。清酒の需要の高まりを受け、例年より多く仕込むという。

(三輪真大)